

## 日本応用地質学会東北支部総会

㈱ダイヤコンサルタント 遠藤 真一

日 時 平成12年5月12日(金)

14:00~17:00

場 所 KKR仙台2F 青葉の間

出席者 142名(出席46、委任状96、支部  
会員225名、賛助会員64社計 289)

講演 47名 懇親会 34名

年度は当初計画はしないが、タイムリーな話題や技術研修テーマがあれば、柔軟な企画で対応する。

4) 研究発表会(平成13年1月26日)

環境関係専門家か廃棄物処理関連技術などを予定

### 1. おもな議題

- 1) 平成11年度活動報告・同会計報告・同監査報告に関する承認
- 2) 平成12年度活動計画(案)の審議
- 3) 会計予算
- 4) 役員人事(案):代表幹事と幹事2名の交代、評議委員2名

### 2. 本年度の主な行事予定

- 1) 支部総会・特別講演会(5月12日)
- 2) 現地見学会(9月8日、9日)
  - ① 国道49号本尊岩防災対策
  - ② 滝坂地すべり
  - ③ 柳津西山地熱発電所他
  - ④ 新宮川ダム

### 3) ミニシンポジウム

10周年行事企画の準備があるので、本

### 3. 10周年記念行事企画の案内と現地紹介

#### 1) 企画の案内(支部幹事橋本氏)

東北支部は、1991年創立以来、来る21世紀の初年2001年5月に満10周年を迎えます。ハンマーに頼らない自然観察ツアーを基本姿勢とし、日本では見られない地形地質観察は勿論、同伴婦人にも配慮した余裕のある行程を考えています。

東北地質調査業協会の会員の皆様にも是非、参加協力を頂きますようよろしくお願い致します。

① 実施時期:平成13年5月19日(土)  
~5月27日(日)

② 予定としている日程  
5/19(土)

成田発→20日早朝パース着 機内泊

5/20 (日)

パース市内見学後→カーナボン着

カーナボン泊

5/21 (月)

シャークベイ周辺見学

カーナボン泊

5/22 (火)

カーナボン→パース→アデレード着

アデレード泊

5/23 (水)

アデレード周辺の地質・化石等見学

アデレード泊

5/24 (木)

バロッサ谷あるいはカンガルー島

アデレード泊

5/25 (金)

アデレード→シドニー着。シドニー

市内見学

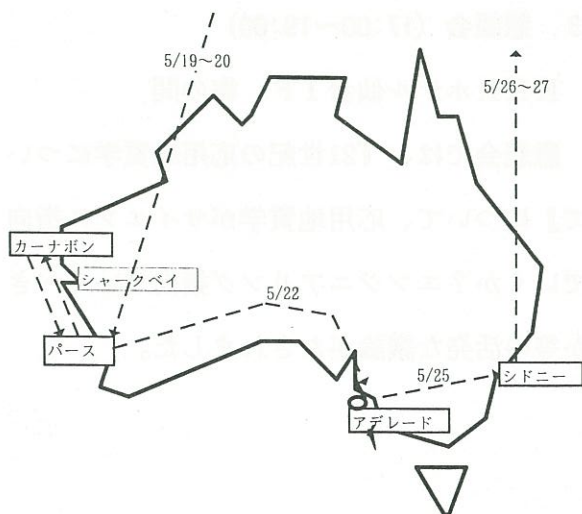
シドニー泊

5/26 (土)

シドニー市内及び周辺見学。

→成田へ

機内泊



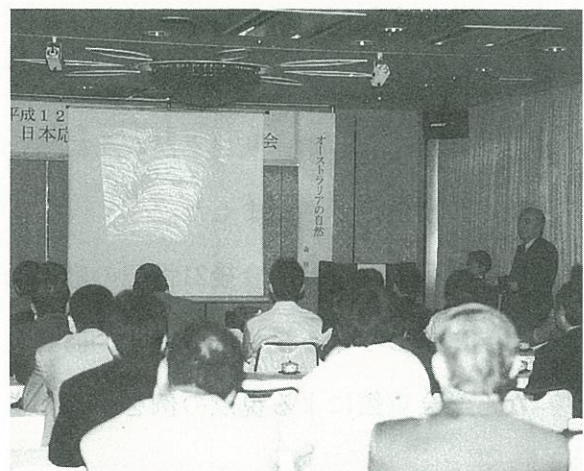
5/27 (日) 成田着

2) フリンズレンジ及びシャークベイの地質・古生物

(東北大学総合学術博物館長 森 啓教授)

豊富なスライド、普通ならば触ることの出来ない貴重な化石標本を用いて、研修旅行候補地近くの地質・古生物の説明がなされました。

アデレードの北、フリンダー山脈で採取した約6億年前の殻を持たないクラゲのようなエディアカラ動物群（これは12年前の学生巡検で特別に採取を許されたもの）、カンブリア紀の海綿のような古杯類、そして1994年に発見された世界最古の珊瑚化石など、今そこから採ってきたかのように、新鮮な標本とスライドで紹介されました。植生がほとんどないので、背斜向斜等の地質構造は一目で理解できるとのことです。また、シャークベイでは、シアノバクテリアの光合成による分泌物が形成したストロマトライトを、現生でも観察される例とし



森教授によるストロマトライトの説明

で紹介されました。なお、これらの化石山地は国立公園内の天然記念物であり、採取は厳禁で、違反者は逮捕、禁固2年の刑に服す運命になるといわれます。

#### 4. 講演（田野支部長・遠藤代表幹事）

演題として、『21世紀の応用地質学について』について、応用地質学会市川 慧会長にお話して頂く予定でしたが、会長の急病により支部対応に変更しました。

1) 田野会長は、応用地質学を取り巻く環境の厳しさを指摘されました。

・内的要因として、応用地質学か地質工学か？サイエンスかエンジニアリングか？、あるいは、地質学との望ましい親と子の関係は何か？等、方向を決めるべきである。

・外的要因として、地質学だけでなく広範囲な地球科学としての役目が求められているのではないかと。しかし、未だ教育環境が熟していないと思われる。

・地質調査においても、確率論など数理的手法を使用すれば、新たなパラメータが提案可能の例として、これらのパラメータが与えられたとき、ボーリングがレキに当たる確率の事例が示されました。

2) 遠藤代表幹事は、今後21世紀の応用地質学に求められる視点について、前会長など学会重鎮による視点の例を紹介しま

した。

・応用地質学は総合的な視点が重要なこと、エンジニアリングの視点の重要性の一方で、踏査など現場を見る基礎を疎かにしてはいけないこと、社会のニーズに応えなければならぬこと等を紹介しました。単独技術では判断を間違い易い例としてトンネル切羽観察の主観性と計測における見掛け変位の例を紹介しました。

・国際資格制度等に対する学会本部の対応について

・学会員構成85%以上を占める民間技術者の今後の活躍について

とくに、国際標準化に伴い、国際的に通用するエンジニア教育と日本技術者教育認定機構等、一連の動きに対しては、応用地質学会ばかりでなく、地質調査業の皆様においても共通する課題であります。今後、全地連、応用地質学会や大学などと連帯を深め、早急に対応していかなければなりません。

#### 3. 懇親会（17:00～19:00）

KKRホテル仙台1F 梅の間

懇親会では、『21世紀の応用地質学について』について、応用地質学がサイエンス指向でいくか？エンジニアリング指向でいくべきか等の活発な議論がなされました。